

米国

銀行融資担当者調査（2023年1-3月期）

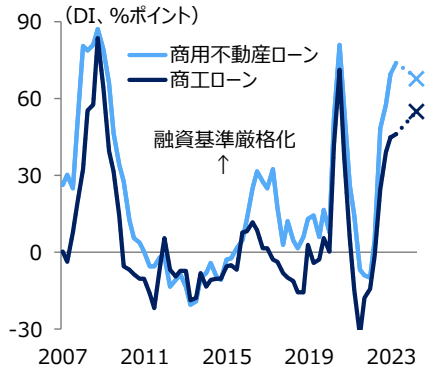
政策・経済センター

田中嵩大

03-6858-2717

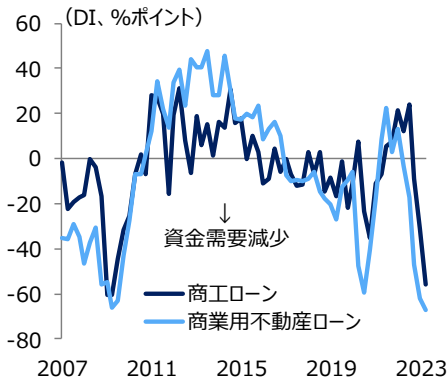
利上げと銀行破綻で融資厳格化が進行、調査対象外の中小行に要警戒

1 企業向け融資基準DI



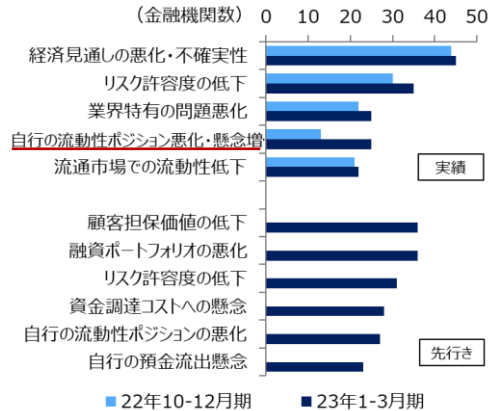
注：商工業ローンは大・中小企業向け。商用不動産は13年第4四半期以降は建設・土地開発向け。×は残りの23年経済が予測通りに推移した場合に予想される水準。出所：FRB “Senior Loan Officer Opinion Survey”

3 企業向け資金需要DI



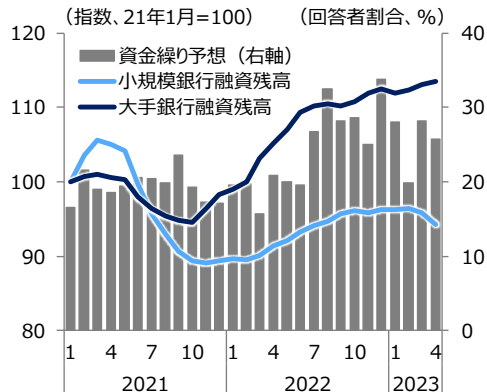
注：商工業ローンは大・中小企業向け。商用不動産は13年第4四半期以降は建設・土地開発向け。出所：FRB “Senior Loan Officer Opinion Survey”

2 融資厳格化の理由（複数回答）



注：「大いに影響」「ある程度影響」と回答した金融機関数。回答数が多い項目を上から掲載。実績は商工ローンの厳格化理由、先行きは融資全般の厳格化理由。出所：FRB “Senior Loan Officer Opinion Survey”

4 融資残高・中小企業の資金繰り予想



注：資金繰り予想は、「今後3か月に資金繰りが厳しくなる」と回答した割合。無回答及び空欄を除いて集計。出所：FRB、NFIBより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 本調査は米銀2行破綻後に実施、1-3月期の融資環境について聞いたものである（調査期間は3/27～4/7、回答者は各連銀地区の主要行）。
- 企業向け融資基準は、商工ローン（前回45→今回46%pt）や商用不動産ローン（同69→同74%pt）などで厳格化が進んだ（図表1）。厳格化理由としては、「経済見通しが悪化・不確実」や「リスク許容度の低下」が引き続き多いほか、前回調査と比べて「自行の流動性ポジションの悪化・懸念増加」との回答が増加している（図表2）。
- また、金利上昇や景気減速によって、資金需要もさらに減少している（図表3）。

基調判断と今後の流れ

- 米銀の融資基準は厳格化している。22年以降の急激な利上げに伴って、既に融資基準の厳格化は進んでいたところに、銀行不安によって流動性懸念も高まった。
- もっとも、銀行破綻による影響がどの程度かは、本調査だけでは読み取りにくい。本調査は銀行破綻の影響が比較的小さい大手銀行を対象としている。そのため、商工ローンの融資基準DIを見ると、銀行破綻前の前回調査時点の23年予想（54%pt）を下回っているほか、23年残りの予想（図表1の×）も55%ptとなっており、世界金融危機時やコロナ危機時の水準を下回る。実際、大手銀行の融資残高は増加を続けている（図表4）。
- より警戒が必要なのは、本調査の対象外であり銀行破綻の影響が大きい中小銀行の動向だ。中小銀行の融資残高は3月以降減少しており、流動性確保のために貸出余力が低下し、貸し渋りが起き始めている可能性がある（図表4）。3月以降、資金繰り悪化を懸念している中小企業の割合も再度増加している。
- 5月に入り、新たにファースト・リパブリック銀が破綻するなど、銀行不安は未だ根強い。中小行から預金流出が加速し、貸出余力が低下することなどを通じて、設備投資の抑制や企業倒産の増加に繋がるリスクが警戒される。